傀儡子孫君　大江匡房

旅舶逢君渡不窮、貫珠歌曲正玲瓏、翠蛾眉細羅衣外、紅玉膚肥錦袖中、雲遇響通晴漢月、塵飛韻引晝梁風、才名如此運如此、緣底多年隨轉蓬、

〔春記〕長久元年五月三日丁巳、參右府相公、亞將云、今日可向桂別業、相共哉如何、予〇藤原資房應許之、巳時許、同乘向彼所、資高、資賴、資仲等、相同、終日遊興之間、傀儡子來、歌遊太有興々々、臨晚景歸給、予參督殿、卽退出、

〔詞花和歌集六別〕あづまへまかりける人のやどりとて侍けるが、あかつきにたちけるによめる、

くゞつなびき傀儡靡

はかなくも今朝の別のおしきかないつかは人をながらへて見し

〔新續古今和歌集九離別〕尾張國に、京よりくだれりける男のかたらひつき侍けるが、あすのぼりなんとしける時、しぬばかりおぼゆれば、いくべき心ちせぬよしいひけるに、

傀儡あこ

玄ぬばかり誠になげく道ならば命とともにのびよとぞ思ふ

〔新續古今和歌集十羈旅〕あづまのかたよりのぼりけるに、あをはかといふ所にとまりて侍けるに、

あるじの心あるさまにみえければ、あかつきたつとて、　堪覺法師

玄るらめや都を旅になしはて、猶あづまぢにとまる心を

返し　傀儡侍從

東路に君が心はとまれども我も都のかたをながめん　つじ君

〔七十一番歌合中〕三十番　右

奥山も思ひやるかな妻こふるかせきがつじの窓の月みて

辻君